

魚住泊の位置と年代

明石市江井ヶ島港出土木材の再検討

Place and Dates of *Uozumi-no-Tomari*
: Reconsideration of the Buried Woods
Excavated from the Eigashima Port, Akashi City

春成秀爾・工藤雄一郎・稲原昭嘉

HARUNARI Hideji, KUDO Yuichiro and INAHARA Akitaka

はじめに

- ① 江井ヶ島における木材の発見
- ② ^{14}C 年代測定試料と分析方法
- ③ ^{14}C 年代測定結果
- ④ 魚住泊の位置と修築

おわりに

[論文要旨]

魚住泊は、天平年間に僧行基が播磨・摂津国に置いた五泊の一つである。その場所については、現魚住港説、江井ヶ島港説があるが、確かな証拠に乏しかった。このたび、1986年に江井ヶ島港に接する赤根川の河口から見つかった木椋の一部とみられるマツ材の ^{14}C 年代を測定した。較正年代から伐採年代は10世紀と推定された。この年代は、914年(延喜14年)に三善清行が朝廷に魚住泊の修復を願い出た年代に対応する。魚住泊は、赤根川の河口に木材で基礎を造り石と土を用いて突堤を築き、船溜りをつくったのが起源で、そこが現在の江井ヶ島港に継承されているのであろう。
【キーワード】 魚住泊, 江井ヶ島, 赤根川河口出土木材, ^{14}C 年代測定, ウィグルマッチング